

ロスガラの夏, ニッポンの夏。

OB会長就任のごあいさつ

管野 陽介 (昭和50年入学)

昨年末の現役定演後の恒例OB定宴にてOB会長の大役を仰せつかりました昭和50年入学Tpの管野(かんの)です。大学卒業後しばらくはロスガラ関係にご無沙汰していた不義理な私でしたが、土屋前OB会長の熱心な説得についに折れ、このたび2年間の任期で務めさせていただくことになりました。すでにお気づきの方も多いと思いますが、今回のOB会長は通常(?)の世襲制に逆行して、前会長より2代古くなっています。これは、昨年秋のロスガラOB大同窓会にて多くの大先輩のご参加をいただき、あらためてロスガラの歴史の深さを認識することとなり、会長職をさらに若手OBに引き継ぐよりは少しでも年代を戻した方がよいのではという前会長の配慮によるものです。とはいえ、大先輩方からすればまだまだ若輩者ではありますが。とにかく、せいっぱい務めさせていただきますので、皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

ところで、今回のOB幹事改選にあたってもうひとつご報告したいことがあります。それは、例年、2年任期で総入れ替え制であったものを、今年度より幹事については半数改選とし、総数4名のうち2名ずつ1年毎に入れ替えていくとしたことです。これにより、業務移管を現職中に幹事間で行うことができることとなります。実際今年度は、会計業務やこの会報作成業務の移管が非常にスムーズに行われていると思います。これはひとえにこの制度を自ら提案しその結果自分たちは3年間幹事を務めることになってしまった國枝・大嶋両氏のおかげです。感謝。

さて、これまでの活動報告ですが、まずOB会の第一の目的である「現役のためのOB会」として、現役からの要請を受けてソプラノ修理・オーバーホール代の支援をしました。この際、今後の現役支援を検討する際にも参考になるべくガイドラインを立案しています。また、昨年秋のロスガラOB大同窓会で皆様よりお預かりした現役寄付金が繰り越されておりましたので、現役と相談の結果、近い将来必要になるであろう「バリサク購入」のための基金として別枠管理することにしました。

さらに、OB会のもうひとつの目的である「OBのためのOB会」として、これも昨年からの懸案事項であった「怒涛のロスガラOB大コンサート」実現に向けて、高梨氏(昭和52年Tb)を実行委員長に迎え着々と準備を進めつつあるところです。今のところ実施は年明け以降になりそうですが、OB会報冬号あたりで詳細をご案内できるものと思います。

最後になりましたが、いよいよ夏本番を迎え、現役恒例の山野ビッグバンドコンテストが迫ってまいりました。今年も大いにロスガラ旋風を巻き起こしてもらいたいものです。なにより、自分たちがそして聞き手にも楽しい演奏を期待しています。

わたしたちが、新幹事です。

このたびOB会幹事をさせていただくことになりました、藤井と申します。私は昭和63年入学で、現役時代はtsを演奏しておりました。また、第24回の定期演奏会ではコンマスもしておりました。前回のOB総会の席上で、新幹事として紹介いただいたときの反響の大きさに応えるべく、2年間精一杯頑張っていきたいと思っております。え、あれってブーイングだったんですか、、、ま、それはさて置き、OB会の更なる発展のため努力してまいりたいと思っておりますので、皆様のご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。あ、だからブーイングはやめて～～。

同じくOB会幹事を務めさせていただきます、高塚(平成元年入学, ds)と申します。私はまだ現役の学生で、東工大で日々生活を送っている身なのですが、はずかしながらここ数年はロスガラ参加率が芳ばしくありませんでした。そんな私が、最近になってむくむくと再ロスガラ化(re-LosGuarize)するきっかけとなったのは、昨秋～冬のLGOB結婚ラッシュでしょうか。國枝さんから、来年度幹事をやらないかといわれたのも、そのような席だったと思います。ともあれ、大学にいる利点を活かして、今までのロスを取り返すべく精一杯頑張りたいと思っておりますので、みなさま暖かい目で見守りください。

[徹底特集] ジャズ・フェスティバル マウントよ、おまえもか!

マウント・フジ・ジャズフェスティバル中止に際して



マウント・フジ、陥落。このニュースが報じられてから早2ヵ月以上が経つ。ロスガラに馴染みのジャズフェスが相次いで中止になっていただけに、LGOBの間でも戸惑いの声が多いようだ。

これを機に今回は、5名のLGOBからジャズフェスをテーマにした文章を寄せてもらった。内容は「ジャズフェスとロスガラ」史、出演話、失敗談、など様々です。お楽しみ下さい。

犬Tの残像

高澤峰之（昭和54年入学）

世にジャズフェスは沢山あるが、筆者にとってのそれは大きく言って3つに代表される。Live Under the Sky（以下LUS）、Newport Jazz Festival in 斑尾（〃MDR）、Mt.Fuji Jazz Festival with Blue Note（〃MFJ）の三者である。

筆者はこのうち最も老舗であるLUSの第3回目、則ち79年に、ジャズフェスを初めて体験した。今は無き田園コロシウムで、大豪雨に打たれながらVSOPやRTFを見た。しかしこれは筆者の"ロスガラ以前"の体験であり、この稿の主旨からは外れる。

ロスガラとジャズフェスの相関が顕著化してきたのは主に90年代に入ってからである。それは、LG関係者のTV出演という形で放送界の記録に残っている。映像資料を繙くと、まず91年LUSのTVオンエアでMilton Nascimentoの歌に踊る筆者の大写しの姿が画面にある。一部で知られる「犬の字のTシャツ」が放送電波に乗ったのは、ここからだっただかもしれない。以後、LG犬T団は例年のようにジャズフェス会場内と公共電波とを席卷していく。ざっと挙げても（以下敬称略）91:[MDR] B.B.King&D.Gillespieの演奏に踊る永(S62)田名部(S63)/[MFJ]J.DeJohnette5の演奏後のカットで遊歩

道を歩く田中(S60)と筆者。92:[MDR]J.B.Hornsのファンキーサウンドに酔いしれる根岸(S63)黒坂(H3)、Dr.Johnのモントゥーノに踊る持田(S57)ほか中華面's、H.Bullockにサインを貰うべく並ぶ森田(S55)。93:[MDR]Irakereの挑発に乗せられステージ真ん前で踊る嶋谷(S57)阿部(S60)島井(S60)田中、永/[MFJ]C.Khanの熱唱に狂喜する吉野(S63)藤井(S63&兄)益田(S63)栗原(S63)岩月(H2)そして2頭の鮭類。94:[MDR]Groove Collectiveのラップに腰振る堀(S63)國枝(S60)森(H3)/[MFJ]US3や怪しいターバン男Lonnie Smithの怪演に沸く鮭周辺(個人判別不能)等々。これらLGの面々が会場で毎年"また居るよ"と囁かれ、TV局関係者間でも"あいつらは何者なんだ"と風評を呼び、そしてその姿を公共TV映像として残されることとなる。

しかし、時代は移る。LUSは92年、MDRは94年を最後に幕を引き、MFJも96年横浜へ場を移してそして消えた。「スポンサー不在」が主因だった。単に経済的な理由もあるが、ジャズフェスが当初の意味合いを逸れて焼肉のみのために集まる人のイベントと化しはじめ、スポンサーの企業にとってメセナの意義が見いだせなくなったから、というウラ話も関係筋から聞いた。音楽を楽しむにしていた人々には残念な事である。が、我々は辛うじて"いい思い出"を与えてもらった。少なくとも筆者には貴重な体験財産である。97年も早、夏真っ盛り。この夏にはどんな思い出が残るだろうか。

ブルーノーツ アメリカ西海岸演奏ツアー体験記 -1991 3-15 Aug.- 菊池 健（昭和57年入学）

ブルーノーツとは？

静岡県浜松市を本拠地とするアマチュアビッグバンド。1975年結成。メンバーの約半数はヤマハ社員ですが、ヤマハとは何の関係もありません。私以外のLG関係者では、四工大で名をはせた元武蔵工大の小野沢くんがリードアルトを吹いています。このバンドで6年前の夏に西海岸へビータしてきました。土肥や松崎とかの温泉で汗も流せて、、、。って、これは伊豆の西海岸。この時のレポートがWEB上 (<http://www.geocities.com/Broadway/2175/bn.html>) にありますが、オフラインで紹介します。

[日程]

8月3日(土) 成田出発→ポートランド
 8月4日(日) Mt.Hood Festival of Jazz に出演
 8月5日(月)~10日(土) Mt.Hood Jazz Workshop に参加
 8月8日(木) シアトルで野外コンサート
 8月9日(金) 自由行動
 8月10日(土) ワークショップ最終日、サンフランシスコへ
 8月11日(日) サンフランシスコにてコンサート
 8月12日(月) ロスのジャズクラブ「カタリナ」にてコンサート
 8月13日(火) ロスのホテル・ニューオータニにてコンサート
 8月14日(水) 帰国

[Mt.Hood Festival of Jazz・当日出演ミュージシャン]

ブルーノーツ/ロイハーグロブクインテット/イエロージャ
 ケッツ/TAKE6/ジョンヘンドリックス&カンパニー/ア
 ルジャロウ/デビッドサンボーングループ

[ブルーノーツ演奏曲目]

In a Mellow Tone/Ya Gotta Try/Home Meeting/Air Stream/Night
 Street/Salvadore Samba/ICTUS/Swiss Suite

いくら場慣れしてるとはいっても2日間で3万人近い観客が来たものだからむちゃくちゃ舞い上がった。観客のノリは上々。でもって正直。やっぱりいい演奏は喝采を浴びるし、つまらんとノらない。個人的には何曲か落とすけど、バンドとしてはすごくいい出来だったと思う。

演奏のあとはすぐに観客に変身。客席は日が照っていて暑いので売店でウォータースプレーを買った。こんなもの売っているなんてさすがアメリカ。しかも通路を歩けば見知らぬ人でも水の掛け合い。湿度が低いので30分もすればTシャツは乾いてしまう。日本でやったら喧嘩になるな。

水浴した後に再びバックステージに。ロイハーグロブ、イエロージャケッツの演奏をステージの後から聴いた。いやぁ、ハーグロブ恐るべし。まだ20歳そこそこののにむちゃくちゃシブいソロを聴かせてくれる。将来が楽しみなミュージシャンだ。イエロージャケッツは新譜 "Greenhouse" からの曲がほとんど。メンバーにボブミンツァーが加わった影響か、カチカチのフュージョンがいくらか軟化したって感じ。でもリズムセクションのスピード感は相変わらず健在。大いに楽しませていただきました。

TAKE6を聴きながらおやつを買いに行くと、さっきスプレーで水をぶっかけた女の子にバツリ!倍にして返された。話をしてみると彼女は翌日からのジャズワークショップに参加する生徒だそうで我々もワークショップに参加すると言ったらいそう喜んでた。それから後は水しぶきをかわしながら彼女らとスタンドで演奏を観

る。TAKE6はやはりゴスペル中心。ライブに強いバンドでノリは最高。途中、アメリカ国歌を歌ったとき観客の半数近くが起立したのには驚いた。このへのノリが日本と大きく違う。

ジョンヘンドリックスはもはや賞禄たっぷり。クラーク テリーが友情出演し、ベテランの健在ぶりを誇示しとりました。そのあと、宿に戻る車が来てしまったのでサンボーンのさわりだけ聴いて会場をあとにした。残念。でもサインはいっぱいもらったし、2ショットで写真もいっぱいあった。でもって至近距離でビシバシの演奏が聴けたのもう大満足。

私のトホホジャズフェス失敗談

田中善之(平成元年入学)

平成元年入学、ベースの田中です。ロスガラOBの皆様には、ご無沙汰しております。

さて、早速本題ですが、「田中-Jazzフェス-失敗談」とくれば…。思い出したくない事ではありますが、ご存じない方のため、また、このような痛ましい事故を再発させないため(?)にも、心の奥底にしまわれつつあった体験をお話し致します。

あれは、私が現役2年の夏合宿中のこと。当時は夏合宿中に、斑尾のジャズフェスに行くのが恒例でした。短パン姿でバスに乗り込み、斑尾へ。到着し腰を落ち着ければ、いつもの通りのこっこのペース。ビールを飲んだり、プロの演奏を目の前にしてまどろんだり。天気は快晴でした。ここまでは、ごく普通のジャズフェス風景。問題はその後です。

終了後、バスで再び宿へ。車に弱かった私は、車酔いに耐えつつバスに乗っていました。いつものようにしばらく気持ち悪さが残り…。しかし、「残る」程度のはずの気持ち悪さがいつになっても消えません。あえなく夜の宴会もリタイヤ。軽い日射病だったよう。宴会の楽しそうな声を聞きつつ、気持ち悪さに眠れない夜を過ごしました。と同時に、太股と膝のあたりに痛みが(もちろん日焼け)。次の日には、立ったり座ったりもできなくなり、水腫れも。現地地の病院に連れていってもらったところ、医師は「ジャズフェス?」とズバリ。「やけどだから水いっぱい飲んで。アクエ

リアスがいいよ。1日2リットルぐらい。」その日からの練習風景は、奇妙なもの。譜面の横にはアクエリアス。足はいすの上に乗せ（血が足の方に下がると辛い）、膝の上には濡れタオル。濡れタオルの代わりに、宿の人が薦めてくれたアロエが載っていたこともあったように思います。

本当に辛かったのは東京に帰ってから。その中でも、合宿後最初の練習は、死ぬ覚悟でした（誇張ではなく）。その当時私は、洗足駅から歩いて7、8分のところのアパートに住んでいたのですが、歩くのは5分が限界。ご存知の通り、この時期は山野BBCの直前。練習を休むわけにはいかない。最初は、タクシーを呼ぼうかと思ったのですが、アパートが道から引込んだところがあり、断念。休もうか、いや休むわけにはいかないと1時間近く思案した結果、覚悟を決め、駅まで歩いていくことに。この時の辛かったこと。足が切れるのではと思うほどでした。大岡山から、部室までも本当に死ぬほど辛く、講堂脇の坂道は、本気で転がって行こうかと思ったほどです。

最後になりましたが、当時のメンバーの方々には本当にご迷惑をおかけしました。

テンラ族の生態—ズジャ祭をめぐる民族学的考察— 森丸直樹（昭和57年入学）

テンラ族は、中南米発祥の土着宗教をルーツとし、16世紀以降スペイン、ポルトガルの影響を受けながら発展したテンラ教を信仰している。テンラ教には、キューバを拠点とするキューバン・テンラ派、ブラジルを中心とするバンサ派、ブラジルのバンサ派教徒が後述するズジャ教との歩み寄り求めた結果生まれたノヴァ・ボッサ派等多くの分派があるが、細かい教義にこだわらず他の宗教に対しても寛容なテンラ族にとっては、この違いはあまり重要な問題ではない。テンラ教は、その享乐的、殺那的な世界観に特徴があり、一般的にテンラ族は将来のことをあまり深く考えない。テンラ族の神事においては、中南米古来の打楽器を数多く用いた明瞭なリズムに乗せた情熱的なダンスに重点が置かれる。

一方、ズジャ族はアフリカの土着宗教をルーツとし、西洋的な世界観を吸収しながらアメリカ合州国の黒人を中心に流布したズジャ教を信仰して

いる。ズジャ教の教えは、社会の制度的な枠組を基本としつつも、個々人のその場その場での即興的な悟りを重視し、枠組からのある程度の逸脱を奨励する。神事においては、個人的な即興的な悟りの表象を他の主体と実時間的に交換しながら、互いの即興的な悟りを高揚させる過程を重視する。ズジャ教には制度からの逸脱を奨励する傾向がある反面、ズジャ教原理主義者は自分たちの宗教の崇高性、優越性を信じており、テンラ教の享乐的、殺那的な世界観に対して否定的な見方を持っているものも少なくない。

日本においては60年代にテンラ教の嵐が吹き荒れ、神事におけるダンスをささげる祈祷所が各所にできたが、テンラ教の享乐的な世界観は一般的な日本の感覚になじまなかったらしく、その後はすっかり下火になっていた。しかし、ここ20年ほどの間に出てきた新しい動きとして、78年に結成されたゲン森村を宗教的指導者とする「太陽教団」を始め、日本を代表するテンラ教団として世界的に名を知られた、カルロス野良を代表とする「光の教団」がある。これら2つの教団は、日本におけるテンラ教信仰を世界的レベルにまで高めるのに大きく貢献した。また、極端な享楽派として知られ、神奈川県相模原地方を中心に活動している相模原教団は、91年に結成されたフェゴ邪魔崎を首長とする「犬の教団」をその前身とし、集会において大量の薬物を使用することで知られている。この薬物を大量に摂取し忘我の境地に至った状態は「記憶喪失」と呼ばれ、相模原教団においては集会での記憶喪失は必須とされている。

一方、ここ20年はズジャ教の布教も活発に行なわれ、特に80年代に入ってから、毎年夏になると日本各地でズジャ教聖地であるニューヨークから著名な宣教師を中心とした布教団を招き、「ズジャ祭」が盛んに行なわれるようになった。ズジャ祭の多くは野外で行なわれ、特に、東京よみうりランド、斑尾高原、山中湖畔で行なわれていたものは、その規模と招かれる宣教師の知名度において他のズジャ祭を圧倒しており、日本三大ズジャ祭と呼ばれ特に著名であった。日本在住のズジャ族は、著名な司祭たちの説教を聞くために、これら各地で開催されるズジャ祭にこぞって押しかけ、高額のお布施を支払った。

やがて、細かい教義の違いにこだわらないテンラ族がこれらのズジャ祭に群をなして訪れるようになり、その享乐的なダンスや薬物摂取などの神事スタイルをズジャ祭においてもそのまま用いたため、閉鎖的なズジャ族との間で衝突が起こるようになった。テンラ教相模原教団に関しては特にこの傾向が強く見られ、91年の山中湖ズジャ祭で起こった、いわゆる「パールハーバー事件^(注1)」はあまりにも有名である。やがて、ズジャ族との摩擦を恐れた相模原教団は、山中湖ズジャ祭においては会場内での集会をあきらめ、会場付近での薬物摂取にもっぱらふけるようになった。また、比較的穏健派のズジャ族が集まる斑尾ズジャ祭においては、相模原教団は会場内での集会を行なうものの、過剰な薬物摂取が原因とみられる教団メンバーの奇行が問題視されるようになる。特に、94年の斑尾における「五番館事件^(注2)」は記憶に新しい。

ズジャ祭において聖地ニューヨークより著名な宣教師を招く際においては、ズジャ祭ブローカの役割が大きい。ズジャ祭隆盛期である80年代後半においては、日本のズジャ族から支払われる高額のお布施から得られるマージンを期待し、大規模なズジャ祭が多く開催された。しかし、ここ数年はカリスマ的な宣教師の相次ぐ死去等を背景に、ズジャ祭はかつてほど教徒を集められなくなり、ブローカは布教団の招聘を積極的に行なわなくなってしまうため、上述の日本三大ズジャ祭を筆頭に各地のズジャ祭は中止に追い込まれた。

主に野外で行なわれるズジャ祭は、細かい教義にこだわらず解放的な神事スタイルを好むテンラ族にとって、格好の集会場所として用いられてきたため、日本三大ズジャ祭の中止はむしろズジャ族よりもテンラ族にとって惜まれる結果となっている。特に、相模原教団のメンバーの中には、最近ズジャ祭を求めてズジャ教聖地アメリカに渡るものが続出しており、今年に入ってすでに2名の教団メンバーが渡米している。さらにこの夏、これら2名のもとに大挙して押しかけようという動きが見られる。筆者自身もテンラ族の一員として、中止された三大ズジャ祭、中でも穏健派のズジャ族が多く集まることから、招かれる宣教師の人選にもテンラ族への考慮が見られる^(注3)斑尾ズジャ祭の復活を特に願ってやまない。

(注1) 聖地アメリカより参加していた正統派ズジャ教徒と、テンラ教相模原教団の過激派メンバーとの間に起こった暴行事件。テンラ教徒の「Do you remember Pearl Harbor?」という暴言が事件の発端であるとされている。

(注2) テンラ教相模原教団のタカ派メンバーが記憶喪失状態になり、斑尾ズジャ祭会場付近の宿泊施設「五番館」に丸腰で乱入した事件。幸い被害者は出なかった。

(注3) 例えば88年には、相模原教団にも特に支持者が多いテンラ教法王チト・クエンテと、テンラ教聖地キューバから聖母セリアが招かれ、テンラ族の熱狂的な支持を得た。

ジャズフェスに出る

新澤健一郎（昭和62年入学）

ジャズは非常に尊敬している音楽で、ライフワークでもあるけれど、私の音楽活動の中に占めるジャズ率はそんなに高くないです。だって他の音楽も楽しいんだもん。

そんな、普段ジャズとは比較的縁遠い暮らしぶりの私でも、ジャズメンとしてジャズフェスに出る機会があります。

一番最近に出たジャズフェスは一昨年の夏の「旭ジャズまつり」。これにはロスガラOBの皆さんにも大勢駆けつけて頂き、横断幕まで用意される始末。カメラマンに殴られながらステージにへばり付きで応援してくれた島井さんは素敵でした。演奏後私は皆さんの心尽くしのビールを全身に浴びて、帰りに西友で替えのズボンを買うことを余儀なくされましたが今となってはいい思い出です。

私が最初にジャズフェスに出たのは「ツムラ・サマージズ」。8月のクソ暑い中に日比谷野外音楽堂で演奏しなければなりません。当時私は増田力也君という若手ドラマーのバンドに参加していて、メッセンジャーズスタイルの3管編成、ジャズがバブルの波に乗ってブームな頃。今思えばいろいろな意味で非常に若々しい演奏だったのだけど、お客さんの受けは良くて、曲が終わると3000人近い観客の「ウオー！」という歓声が鳴り響き、あれはかなり気持ちいいもんです。なんか、「音」というよりも「風圧」という感じ(笑)。日頃のライブハウスやスタジオなどでは体験出来ないことのひとつでしょう。

日比谷野音は楽屋が1つ(大部屋)しかなく、みんなで仲良く利用しなければなりません。周りにはジョージ川口松本英彦高橋達也氏など皆大先輩で、それなりに気を使って疲れたり感動したりた

めになるお話を聞いたりで大忙しです。いろんなミュージシャンとお近づきになれるのはジャズフェスに出る魅力の一つですね。

次に出したのは四国の、愛媛県だったかな？もう殆ど覚えていないけど、いわゆる地元密着型ジャズフェスの典型だった印象が…。このときは本田竹広さんのバンド(峰(ts)、植松(ts)、向井(tb)という凄いフロント)やピアノの吉岡さんのバンドと一緒に、ジャムセッションなんかもあって大盛り上がり。私の出鱈目な(笑)マイルストーンに付き合っただけだった村上寛(ds)さんはさぞ大変だったでしょう。終演後には地元の人達と打ち上げもあって、夜風に吹かれながらのマグロのたたきをはじめとする料理も大変旨かったと記憶してます。地元女子高生にサインなんかも強請られたりと、至福の時間だったのではないのでしょうか。

ところで、ジャズフェスは盛り上がりた楽しいことこのうえないのですが、世の中そんなに甘くはありません。

- ・舞鶴での「赤煉瓦ジャズフェス」にトロンボーンの中川英二郎君のバンドで出たとき---雨で野外ライブが急遽ホールでのコンサートになってしまいイマイチな盛り上がり。
- ・合歓の郷の「NEMU JAZZ INN」に出たとき---なんか集客(宣伝?)がうまく行っていない、とても淋しい。原・大坂バンドとかも出ていたのに、もったいなかった。

やはり成功しているジャズフェスにはお客さんや出演者のパワーに加えて、天候の善し悪しや、主催者・実行委員関係者の手腕も大きく関係しますね。

裏方さんの話しが出たついでですが、私の知り合いの呼び屋さんなんか話話を聞くと、これまた面白いです。例えば、サクソ吹き某D.S.氏は契約書の特記事項に「アボガドを30個用意」とかあって、「？」と思っているとあれは彼の病気である小児麻痺にいいんだとか。かなりの数だとは思っただけ、用意されたアボガドは毎回ちゃんと全部平らげて帰っていくそうなので、偉いと言えば偉いです。他にも、某P.M.氏のギャラは某H.H.氏の3倍近くと破格に高額で、呼ぶのには気合いが必要らしい、などなど、、、(でも彼なら高くても許す！)。

あ、そういえばジャズフェスに出ていてギャラ

で特別いい思いをした、ってのは私は無いですねえ(笑)。ジャズフェスのギャラの相場ってのは私には謎ですけど、私がもらった具体的な数字をここに書くわけにもいかず、この点についてはご想像にお任せ、ということにしましょう。私も他のミュージシャンの数字を知りたいですが(笑)。

ここ2年くらいはジャズフェスとちょっと疎遠ですけど、また出たいですね。いろんなミュージシャンや大勢のお客さんと時間を共有出来るのは嬉しいことだし、あの独特の雰囲気も結構好きだし。そういえば、最近流石に水着姿で踊り狂うねえちゃんは減ったなあ…残念。

ゆくゆくは自分のグループでモントルーとかに出れると嬉しいな、なんとも思ってます。横断幕持って駆けつける皆さんの姿が楽しみ！

[特報!] 新澤健一郎ライブスケジュール

最新情報はホームページにてのご案内しています。

<http://www.gardencity.or.jp/~shinzawa/>

★「新澤矢堀バンド」が現在レコーディング中です。9～10月あたりの発売を予定しています。

★ライブではありませんが、最近、Apple 20周年記念モデルMac「Spartacus」とPowerMac 4400/200のプレゼンCD-ROMの音楽制作という仕事をやりました。

Spartacusの方はなかなか見かけないと思いますが、PowerMac 4400/200の方は現在店頭でじゃんじゃんかかっていますので見かけた際には是非聴いてみてください。

8/1(金) 六本木PitInn【新澤矢堀セッションExtra】

新澤健一郎(p,key),矢堀孝一(g),鬼怒無月(g),高木慎二(sax)
たっぴー(ds), Open 18:30 Start 19:30 ¥3,000-(1drink付)
問:03-3585-1063

8/6(水) 六本木PitInn【新澤グレッグ岩瀬Band】

新澤健一郎(p,key),グレッグ・リー(b),たっぴー(ds)
Open 18:30 Start 19:30 ¥3,000-(1drink付),問:03-3585-1063

8/8(金) 六本木PitInn【水野正敏電気スタンダード】

水野正敏(b),新澤健一郎(p,key),たっぴー(ds), CHAKA(vo,
from 元PSY・S), Start 19:45, チャージはお店に確認して下さい, 問:03-3478-5068

8/31(日) 柏ナルディス【岩瀬立飛ワークショップ】

たっぴー(ds),新澤健一郎(p),武田桂二(b)
開演時刻(多分20:00くらい),チャージはお店に確認して下さい, 問:0471-62-0592

9/2(火) 六本木PitInn【新澤矢堀バンド】

★レコーディング完了記念ライブ★

新澤健一郎(p,key),矢堀孝一(g),岡田治郎(b),嶋村一徳(ds),
Open 18:30 Start 19:30 ¥3,000-(1drink付), 問:03-3585-1063

[好評連載] ここは失楽園ならぬ、快樂園…

ロスガラの妻たち パフィ〜篇っ!

【根岸孝昭の妻、素子の場合】

3年前のとある夏の日のことです。終電を逃した私は、仲間数人と後輩であるねぎさん(根岸孝昭 28歳 本名)の部屋に上がり込み始発電車を待っていました。はじめは元気に話をしたりテレビを見たりして時間をつぶしていましたが、だんだん会話もつききて睡魔が遅い始めてきたその時、部屋の主であるねぎさんがおもむろに立ち上がり「いいものを見せてあげましょう」と一本のビデオを取り出しました。真夜中→いいもの→ビデオ という模式図に皆の期待は高まり、眠気もすっかり吹き飛びました。

いいものって、いいものってなあにい?

スイッチオン……

おおっ……こっこれはっ……

皆の期待とは裏腹に(何を期待していたの?)そこにうつっていたのは陽気なリズムを奏でるビッグバンドの方々でした。が、そこで何よりも注目すべきはその姿!!……

仮装?……

欽ちゃんの仮装大賞でさえまともに見ることのなかった私でした。(そのビデオには『ロスガラ華麗なる仮装の歴史』という題が付いていたことはいうまでもないでしょう。)しかしみんなが爆笑している中、私は一人画面に釘付けになり、しきりに感心し、感動し、感嘆していたのでした。

「すごいすごいすごーいっ」今から思うと、その時からすっかりロスガラにはまってしまったのでしょうね。そのあとそれがきっかけで(?)ねぎさんにつきあうことになり、学祭に誘われた時に初めてロスガラの方々の演奏を聴きました。その時にインパクトが強かったのは、演奏よりも周りで踊っていたOBの方々の姿でした。長髪でひげの人(もちろん高澤さん)、大声でヤジを飛ばす人(藤井兄さん(兄さんがロスガラ出身でないということがどれだけ私を驚かせたことでしょう))、極めつけはハニーさんの青い山脈!! 私はその姿を見て、「なんてすてきななんてすてきななのっあたしもなかまにいれてーっ」と心の中で叫んでいました。

……それから2年後、根岸妻となった私は、

何の因果か定期演奏会でPUFFYの亜美ちゃんとして(由美ちゃんはむむさん*)OBバンドのMCを担当することになりました。その楽屋裏で、仮装を施したレギュラーバンドの方々がエレベーターに乗り込む(乗り込めない!!)姿を見てロス妻になった醍醐味をひしひしと感じたのでした。

*編集部注:次稿著者、宇野明香さんの愛称。

【宇野俊之の妻、明香の場合】

皆さんこんにちは、宇野明香です。まだご挨拶していない方がいるかもしれません。改めてご報告しますと、昨年11月に宇野俊之(以下俊之)と結婚し、ロス妻の一員となりました。伝統あるロス妻の名を汚さぬ様、「芸のためならダンナも泣かすウ〜」を座右の銘に日々精進して参る所存で御座居ます。

さてお約束により私と俊之との出会いについてですが、「共業のコーチだった」という古典的手法でひっかかった訳です。当時テナーが上手くなりたくて仕方なかった私にとって、俊之の太い音色とぷりぷりしたカラダは何とな〜く眩しく見え、更に定演でのプリミティブな芸に、「この人は大天才に違いない!」と思ったのでした…。それにしてもロスガラは、中学・高校時代ナゾのインド人オブジェの作成をテーマとしていた私にとっては胎内回帰にも似た不思議な安らぎと既視感を伴うものでした!?!「ウケるためなら死んでもいい」「バカなことに命を懸ける」という美しい自己犠牲的精神が永遠にロスガラから絶えぬよう願って止みません。あなたも定演が縁で結婚できる…かもヨ(by宮尾すすむ)。

「私とロスガラ」について書いてきましたが、字数が少なくなった所で一転、この間行ったボルネオ島の話。オランウータンやテナガザルを見にジャングルに行ったのですが、海ガメの産卵が見られる島に渡ったとき、香港のお金持ちと知り合いになったのです。そのツアーは二人だけだったので(ダンナは日本に置いてきた)丸一日ほとんど行動が一緒になってしまいました。最後の日、「君は素晴らしい。是非私の3番目の妻になって欲しい」と言われましたが、とりあえず「Fuck you!」と言って帰ってきました。後日それを聞いて俊之曰く、「ボクにも紹介して〜」。この続きを知りたい、或いは証拠写真を見たい方は鶴見の我が家まで是非お越し下さい。俊之が美味しーい

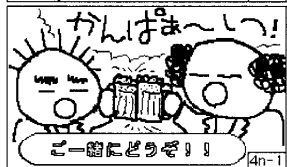
タイ料理でおもてなし致しますよ～。それでは New Yorkの空から失礼します。

バーチャル4nコマ漫画

ロスガラくん

第50000回記念

すずきなほ



[緊急報告] 1997年度ロスガラ現役レポート

8.16 山野は熱帯ジャズ楽団と! ?

—日大リズムとのジョイントも果たす—

こんにちは。本年度マネージャーを務めている吉田伸也と申します。最近次第に暑くなってきておりますが、OB・OGの皆様、お元気でしょうか。さて、今回は幹事の高塚さんから現役の活動報告を、という原稿依頼がありまして、現役代表として私が書くことになりましたが、その前に本年度OBの方々からいただいた援助(ソプラノサクソの修理)に対するお礼を現役を代表してさせていただきます。どうもありがとうございました。

それでは、本題に入ります。今年、新入生は現在18名(tp×3、sax×3、tb×3、rhy×9)しかもその内ギャルが8名という大変華やかなものとなっています。ただ、その半面あまり飲まない

人が多く(というより全員)、春合宿でも、2年前私の同期の江口(英語を話し出す)、井口(ドラムを叩き出す)のようなスパークをした人がいなかった、という物足りない結果になってしまいました。かえて、D、E年の方がつぶれた and つぶれそうな人が多かった位です。この借りは夏合宿に少しでも返してやる、というのが私の最近の小さな野望です。

次に本年度の今までの音楽活動についての報告をします。四工大は日工大の復活があって、無事、四工大となりました。五大+1は台風直撃となり、慶応大学日吉校舎の学生会館ですることになり客足は遠くなりましたが、個人的には楽しめたのでよかったです。そして今年、新たに日大リズムとのJoint Liveが6/18、江古田Buddyで行われました。題して、「Dos Vientos(二つの風)」! ただ、1つ残念だったのが、バンドとしてのレベルに少し差があったので「二つの風」となり得なかったことです。来年以降は「2つの風」となってくれる事を願っています。

そして最後に、前半最後のビッグイベント、山野Big Band Jazz Contestに向けてのことを書きます。今年度、山野は1日目9番目(編集部注:8月16日午後1時40分)の出場、なんとあの「熱帯ジャズ楽団」を前座としての(?)出場です。これまでの演奏で「雰囲気は良くなってきた。」と言われてきたので、山野ではこれまでの雰囲気をさらに強くして、かつ内容も緻密な演奏をして、なによりも「楽しいステージだった。」と言われるように頑張ろうと思います。

つたない文章で今年のこれまでのロスガラチェロスの活動を報告してきましたが、楽しいステージを演出することを目標としている今年のロスガラチェロスをこれからもどうぞ宜しくお願いします。

編集後記: まずは、お忙しい中快く原稿執筆を承諾して下さい下さった方々に、心より感謝申し上げます。特に、ジャズフェス特集は、当初の予定を大きく上回り、5頁にわたる大特集になりました。それもそのはず、ほとんどの原稿が「指定字数を超えてしまって申し訳ない」といったコメント付きで送られてきた力作だったのです。今後もOBの皆さんの楽しい文章をお待ちしております。藤井()、高塚()まで、お気軽にどうぞ。